

関係機関長様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報第 1 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

## 平成 2 3 年度病害虫発生予察防除情報第 1 号

- 1 病害虫名 ピーマン炭疽病 *Colletotrichum simmondsii*
- 2 対象作物 ピーマン
- 3 発生地域 兵庫県北部
- 4 発生状況 早い

本病については、平成 2 3 年 5 月 1 6 日病害虫発生予察特殊報第 1 号により、県下での初発生を発表した。本病原菌は最適生育温度が約 25 ~ 27.5 であり、発生時期が早い場合は梅雨期から、平年並の場合は盛夏期を過ぎた秋雨の時期に多発する傾向にある旨周知した。

ところが、今年は 5 月 2 6 日に梅雨入りし、5 月 2 9 日 ~ 3 0 日の台風 2 号接近に伴う強い風雨を記録するなど、気象が例年と大きく異なっている。

このため、6 月中旬には豊岡市但東町で、6 月下旬には朝来市で本病の発生が確認された。

昨年までの発生では主に盛夏期を過ぎた秋雨の時期に発生していたことから、本年の発生は早く、多発すると予想される。

### 5 病徴及び被害

- (1) 果実がはじめ円 ~ 楕円形に陥没し、灰褐色となり、のちに同心円状の菌そうに覆われ、オレンジ色の分生子塊が形成される(図1)。
- (2) 葉にも斑点病に酷似した同心円状の斑点を生じることがある(図2)。
- (3) 本病が甚発生となると、果実がすべて罹病してしまい、収穫皆無となる(図3)。

### 6 病原菌と発生生態

- (1) 本病原菌は被害残さとともに主に土壌中で越冬し、翌年の伝染源となりうる。降雨やかん水時の土壌の跳ね上がりにより、ピーマンに菌が付着して感染する。
- (2) 一旦感染すると、降雨やかん水により飛散し、次々に感染する。傷口から感染しやすい。
- (3) 本病原菌は、多犯性であり、ピーマン・トウガラシ類をはじめ、トマト、イチゴ、サヤインゲンアズキ、エンドウなどに病原性がある。

### 7 防除対策

- (1) 発病果、発病葉を見つけ次第は場外に持ち出し、焼却するか石灰窒素と混和後ビニルシートで覆うなどして処分する。
- (2) ピーマンに傷をつけないように、防風対策をとる。枝つり、支柱などしっかりと固定する。
- (3) 水はねが感染につながるため、足元を清潔にする。落ち葉などは取り除き、剪定を行う。
- (4) 登録農薬として、TPN水和剤(商品名:ダコニール1000)、アザキストピソ・TPN水和剤(商品名:アミスターオプティフロアブル)がある。
- (5) (4)に挙げた薬剤は主に予防効果を示すので、発病果、発病葉などをできるだけ場外へ持ち出した後、薬剤散布を行う。散布の際は農薬安全使用基準を遵守する。

ピーマンは作期が長いので、特に薬剤の散布回数に注意する。

### 8 問い合わせ先

兵庫県病害虫防除所(加西市別府町南ノ岡甲1533)

電話番号:0790-47-1222



図1 ピーマン果実の症状（陥没し、同心円状の病徴）



図2 葉及び果梗の病斑



図3 甚発生で収穫皆無となったほ場